

学 園 報

No.41

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/>富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

富山国際大学付属高等学校

URL <http://www.tuins-h.ed.jp>富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>

社会福祉法人富山国際学園福祉にながわ保育園

URL <http://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

教育の無償化



理事長

金岡 克己

少子高齢化の進展が、現実のこととして広く認識されるようになりました。緩やかな景気回復と合わせ、労働人材の不足がクローズアップされています。そして、戦後の高度経済成長期に形成された多くの社会制度、社会インフラの持続可能性が問われる時代に入りました。年金制度ばかり、医療保険制度ばかり、橋や道路の保全ばかりです。

こうした流れの中、人とりわけ次代を担う若者の教育を無償化しようとの主張が強まっています。教育無償化の考え方をさらに敷衍、一般化し、ベーシックインカム導入を唱える人々もいます。イマニュエル・カントは、「人間は、教育されなければならない唯一の被造物である」との言葉を残しました。

日本は、小学校・中学校教育が義務化され、高校進学率も通信制を含め98%に達する教育国ですが、国際社会は異なります。2015年、国際連合にて全会一致で採択されたSDGs (Sustainable Development Goals) の17の目標に掲げられるとおり、「質の高い教育をみんなに (Quality Education)」は人類共通の課題です。

日本の教育への公的支出の割合が、OECD 諸国最低レベルにあることは、よく知られた事実です。また、グローバル化、新自由主義的発想が広まる中、児童の相対的貧困率が高まり、高等教育が受けられないことによって貧困の連鎖が続くのではないかと、結果として社会の分断を招くのではないかと懸念が強まっています。

現代人を現代人たらしめているもの、それは脳の前頭前野の働きであり、人類の知的資産の継承のお陰といえるでしょう。2次方程式は中学3年生で習う内容

ですが、何らの教育なしに自力で解けるようになる人はどれだけいるでしょう。

米百俵の精神、教育への公的支出を増やす議論は、日本の将来を占う上で、また教育の機会均等の観点で極めて大切だと思います。

教育無償化にはさまざまな反対があるようです。財源不足論、金持ち優遇論、大学の選択と集中が先、万人への高等教育は不要など。人の命が重要とし、教育は自己責任が原則で、老人医療を優先すべきという人がいます。しかしながら、人の命が大切ならば、少なくとも個人所有の自動車は廃止を考えるべきでしょう。ピークの昭和45年(1970)には1万6765人、今も毎年4千人近い方が交通事故で亡くなっています。

反対論の多くは、公的支出の枠組みを変えない前提です。ここは一步進めて、前途ある若者への教育を最優先とする考え方に転換すべきでないでしょうか。

日本の将来に目を向ける意味で、教育の無償化は歓迎すべき議論です。一方、教育を提供する側への社会の目も格段に厳しくなるでしょう。教育内容、教育機関ならびに教職員の質、行動が厳しく問われる時代になると想定されます。

昨今のマスコミ報道で、いじめ自殺への教育関係者の対応、ネット掲示板でのパッシングなどを見るに、教育界の常識が一般社会の許容するレベルに達していないと感ずるのは、私だけでしょうか。犯罪に類する行為までいじめと呼称し、教育現場にありがちなものと矮小化、隠蔽する姿勢こそ問題とすべきではないでしょうか。

CONTENTS

- 教育の無償化 理事長 金岡 克己 1
- 特集1 新たなステージへ
富山短期大学付属みどり野幼稚園の
園舎改築工事がスタート 2~3
- 特集2 平成30年度 富山国際大学 現代社会学部
「英語国際キャリア専攻」開設にあたって
..... 4

富山国際大学 子ども育成学部の募集定員を 80名から90名に変更

- 平成29年度部門別学生・生徒・園児数等 5
- 平成28年度決算及び財務の状況 6~7
- 学園NEWS 8

新たなステージへ 富山短期大学附属みどり野幼稚園の園舎改築工事がスタート

富山短期大学附属みどり野幼稚園 園長 石動 瑞代

富山短期大学附属みどり野幼稚園は、開園（昭和52年）から40年が経過しました。緑豊かな園庭と落ち着いた室内環境のもとで、幼児期にふさわしい経験を展開する教育内容は、すでに高い評価を得ています。保護者からの信頼も厚く、家庭との連携によって、一人ひとりの子どもの豊かな成長を支えてきました。また、富山短期大学幼児教育学科及び富山国際大学子ども育成学部の実習園として、質の高い保育者養成に努めています。

このような附属みどり野幼稚園の特性を維持・発展していくための方策について、平成27年11月から学園の「みどり野幼稚園改築構想委員会」を中心に検討がすすめられ、平成28年度に、園舎の改築を含む園づくりの構想がまとめられました。多年にわたり、附属みどり野幼稚園を支えてこられた青山仁前園長の退職にともない、新たな園づくりのバトンを渡されたのが、今年度から第9代園長を拝命することとなった私です。

富山短期大学幼児教育学科教員との兼務でありながら、重大なバトンを引き継いだ責任に押しつぶされそうになりながらも、子どもたち、子育て家庭のために仕事ができることに感謝しております。わからないことばかりではありますが、一歩ずつ着実に進んでいく気概をもって、日々の業務に努めております。

新たな園づくりに向けて

4月から進めておりました園舎設計の細部の調整を終え、11月初旬には、施工業者も決定いたしました。また、12月3日(日)には、清々しい晴天のもと地鎮祭を執り行い、いよいよ新園舎の改築工事が始まります。



簡単ですが、改築工事の概要と新園舎の特徴等を説明させていただきます。

園舎改築の主な目的

園舎の耐震化・老朽化への対応だけでなく、子ども子育て支援新制度による園機能の充実を図ることを目的としています。平成31年度4月から、「幼稚園型認定こども園」として、保育ニーズに応えるとともに、地域の子育て支援機能を充実させます。また、新たな幼児教育の理念にふさわしい、豊かな体験と学びの場として、保育環境を整えます。加えて、保育室を1クラス増やすことで、実習園としての機能を強化します。



園舎改築工事の概要

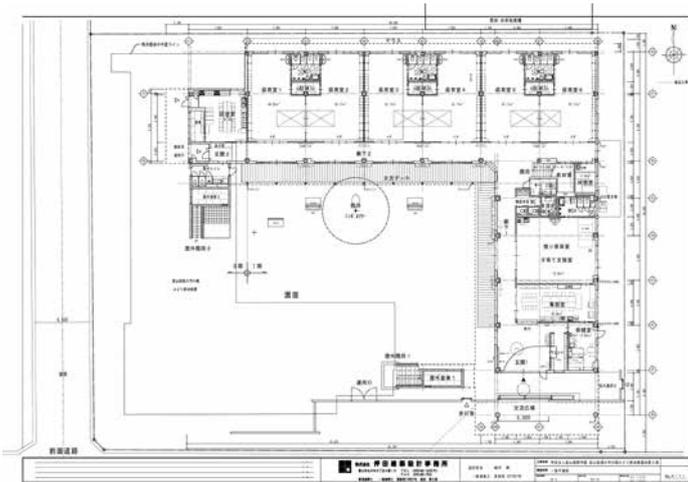
- ・ 建築面積 鉄骨造一部2階建て 1,241㎡
- ・ 工期 平成29年12月～平成31年2月
Ⅱ期に分けて実施
- ・ 事業費 約600百万円
- ・ 設計 押田建築設計事務所
- ・ 施工 近藤建設・石坂建設共同体

新園舎の特徴

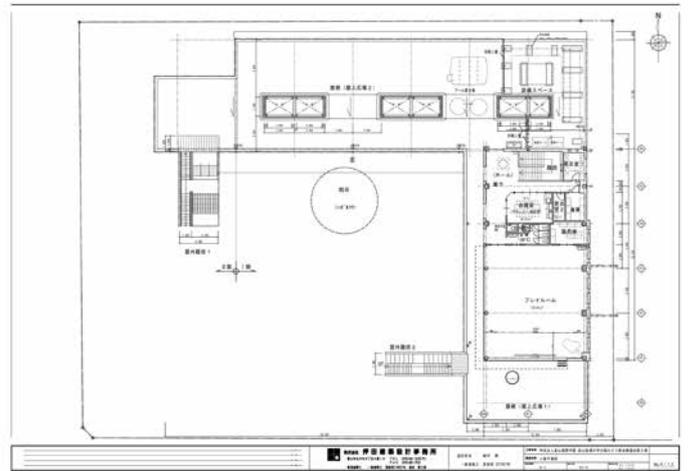
「夢中に遊び、笑顔につながる幼稚園」

北東に伸びるL字型の園舎は、緑豊かな園庭に開放的な建物となっています。保育室から園庭、屋外階段から屋上へと、屋内外の回遊性がうまれ、子どもたちが活発に活動し、友達や異年齢児とも交流が広がる空間となっています。

1階平面図



2階平面図



<保育室：1階北側>

トップライトから光が入る明るい保育室になっています。各学年がそれぞれの遊びや生活を感じ取ることができるように6クラスが並びます。可動式の壁面によって、2クラス合同のオープンスペースにもなります。ロフトが設置され、子どもたちの「隠れ家」的空間をつくっています。

<子育て支援室：1階東側>

地域の子育て支援や預かり保育の場となる子育て支援室は、職員室の隣にあります。畳コーナーやミニキッチンなどもあり、ゆったりと落ち着いて遊べる空間です。絵本コーナーが設けられ、いつでも好きな絵本を読むことができ、親子交流の場にもなります。

<プレイルーム：2階>

南側が全面ガラスでオープンになっており、開放的な空間です。また、園庭から直接プレイルームに上がる屋外階段があり、スムーズな出入りが可能となります。

<屋上広場>

2階には、屋外階段からプレイルーム、そして屋上広場へとつながる回廊があります。屋上広場からはロープや網などの遊具が付いた屋外階段があり、子どもたちが楽しみながら園庭と屋上広場を行き来できるようになっています。

<園庭>

2つの築山を中心に砂場や泥場、遊具、樹木や草花などを配置します。現在の園庭で育った木を戻す

などして、緑豊かな園庭を復元し、子どもたちが十分に自然にふれ合うことができる環境とする予定です。

<会議室：2階>

プレイルームの隣に会議室を設け、職員や保護者等の交流・研修の場とします。

<玄関・事務室：1階南側>

全面道路に面した南側には、管理ゾーンとしての玄関・事務室があります。防犯カメラ・モニター等の設置で安全確保を図るほか、実習生の受け入れに配慮した下足スペースがあります。その他、玄関及び玄関前には、保護者や子どもが交流できるスペースを設けています。

改築工事とともに

本園の改築工事は、移転改築ではなく、現地での保育を継続しながらの工事となります。安全面の確保はもちろん、保育空間の狭さや騒音など保育環境上の課題はたくさんあります。すでに保育室の移動等を始めた子どもたちは、環境の変化に戸惑う姿も見られます。しかし一方で、すぐに環境に感じながら、意欲的に遊ぶ子どもの姿に、ほっとすることもあります。改築工事は大変ではありますが、マイナスにはとらえず、このプロセスを子どもたちと一緒にみつめ、時には遊びのイメージとして生かしながら、分かち合っていきたいと考えております。

学園内外の皆様にも多大なご迷惑をおかけすることと存じますが、どうかご理解、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成30年度 富山国際大学 現代社会学部 「英語国際キャリア専攻」開設にあたって

富山国際大学 現代社会学部 学部長 尾畑 納子

富山国際大学現代社会学部は、平成30年4月からグローバル社会に対応する英語コミュニケーション力と国際教養力を強化した「英語国際キャリア専攻」を開設いたします。

本学部は、平成20年度に「これからの21世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」を教育目標として設置され、今年度で10年目を迎えました。この間、地域のグローバル化に対応した観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻の3専攻で、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成をめざして教育研究活動を実施してきました。特に、海外協定校を中心とした異文化研修、留学、海外ボランティアなどの海外体験やイングリッシュ・キャンプ、学内イングリッシュ・カフェの設置、自宅英語学習システムの導入などの語学学習支援に力を入れ、国際コミュニケーション力を備えた人材の輩出に取り組んできました。

一方で、県内企業を取り巻くグローバル化の波は、急速に押し寄せており、中国をはじめとしたアジア圏や英語圏への進出・交流が一層盛んになっています。また、平成27年の北陸新幹線開業以来、県内を訪れる旅行者が増加傾向にあり、特に観光地を訪れる外国人旅行者への対応も重要な課題となっていま

す。このような地域の変化に応えるため、新設の「英語国際キャリア専攻」では、グローバル化時代に対応し、海外への進出・交流を進める企業・事業所、団体、学校等で、英語力を活かし、国際活動を担うことのできる人材を育成します。

主な特色として、

- ①国際理解・英語に特化した専攻
- ②英語による専攻科目の授業
(知識と語学力を養う)
- ③少人数教育
(英語コミュニケーション4技能の強化)
- ④英語圏の海外協定校への留学
(語学力と実践力を養う)
- ⑤TOEIC700～800点取得
(ICTを活用した英語学習システムの導入)
- ⑥英語での卒業論文作成
を掲げました。

新専攻の学びで実践的な英語力を身につけ、幅広い視野を持ち、国際活動を担うことのできる人材、そして地域実習等で地域に深い愛情と理解をもち、粘り強く課題解決に取り組み、未来を拓いていく若い世代を富山国際大学から輩出していきたいと念願しています。私どもの新たな挑戦に、是非皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

【英語国際キャリア専攻の授業科目例】

	1年次		2年次		3年次		4年次
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
国際人としての能力	国際理解	国際ボランティア論	国際関係論	日本の社会と文化	異文化理解		
	国際交流実習	国際ジャーナル	国際コミュニケーション論	多文化共生論	国際関係特論		
異文化研修	異文化研修						
	インターナショナルプログラムズ(短期/長期)						
スペシャリストとしての能力	キャリア英語(基礎・展開)	英語学	Academic Writing I	グローバルスタディーズ I, II, III	Advanced Reading II	Academic Writing II	専門演習Ⅱ(卒研含む)
	英語音声学	Creative Writing	Advanced Reading I	グローバルスタディーズ IV, V	Presentation and Debate	英語文学	
国際キャリア	現代社会概論	観光概論	国際観光論	情報社会論	国際キャリア特別講義	国際ビジネス	
	地域文化論	環境デザイン概論	環境社会学		国際協力	国際交渉	
総合		経営情報概論	地球環境論				
		国際キャリア概論	日本経済論				
社会性の向上	地域づくり実習	地方自治法			専門演習Ⅰ・a	専門演習Ⅰ・b	
		地域課題探求講座			環境・社会・企業と倫理		
	インターンシップ(国内・海外)						

富山国際大学 子ども育成学部の募集定員を 80名から90名に変更

富山国際大学 子ども育成学部 学部長 辻井 満雄

富山国際大学子ども育成学部では、本学部の教育、就職実績等が評価され、平成25年度以降入学定員80名を超える入学者を確保してきました。この現状を踏まえ、時代と地域の要請に応えるため、平成30年度から入学定員を80名から90名に変更します。これにより、現在330名の収容定員が、学年進行終了時（平成33年度）に370名となります。今後も、特色ある教育課程をさらに推進し、教育の一層の充実と人材育成の向上をめざします。なお、現代社会学部の入学定員の増減はありませんので、大学全体としての入学定員は10名増加になります。

「子ども育成学部子ども育成学科」は、平成21年に、次代を担う子どもの育成をめぐる今日的課題に対応するため設置しました。設置後は、教育学、保育学のみならず、心理学、社会学、社会福祉学、健康科学など多角的な実践的アプローチを学べる教育課程を実施し、一人ひとりの子どもの幸せとこれからの社会の基盤づくりに貢献していくことができる人材の養成をめざし、地道に取り組んできました。

本学部の教育課程の特色は、「子どもの最善の利

益」を重視するという理念に基づき、

- ①子どもの育ちをその環境と一体的にとらえること
- ②少人数できめ細かい実践的・専門的教育を推進すること
- ③「地域で学ぶ」、「地域に学ぶ」、「地域で育つ」こと

であり、これらを基盤として、専門的な知識・技術と豊かな人間性の育成のための教育に力を入れてきました。

子ども育成の専門家にふさわしい小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格など、学生は、ほぼ全員が何らかの免許・資格を持って卒業し、平成25年度からは、就職率100%の出口実績を達成しています。これが、学生一人ひとりの個性を見出し、地域貢献できる人材を育成し、入学者を着実に伸ばせる学部であるという信頼の獲得に繋がってきたと思います。

定員増加後も、未来の幸せをつくる「子ども育成学」の発展に向け、全力で取り組んでいきます。

平成29年度部門別学生・生徒・園児数等

平成29年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大 学	現代社会学部	490	108	93	122	109	432	88.2%	
	子ども育成学部	330	116	87	96	103	402	121.8%	
	小 計	820	224	180	218	212	834	101.7%	
短 大	食物栄養学科	160	87	82			169	105.6%	
	幼児教育学科	160	83	87			170	106.3%	
	経営情報学科	220	122	110			232	105.5%	
	福祉学科	120	38	39			77	64.2%	
	専攻科食物栄養専攻	30	14	15			29	96.7%	
	小 計	690	344	333			677	98.1%	
高 校	全日制普通科	750	272	304	263		839	111.9%	
幼 稚 園		100	3歳児 26	4歳児 29	5歳児 34		89	89.0%	
	総 計	2,360					2,439	103.4%	

平成28年度 決算及び財務の状況

平成28年度決算及び財務の状況

平成28年度の事業報告及び決算は、去る5月29日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、現代社会学部が学生確保に苦戦する中で、全体でも入学定員を確保することが出来ませんでした。当年度収支差額で55,261千円（H27 83,025千円）の黒字計上となりました。入学定員割れをしながらも、4年連続で黒字計上できたことは、外部資金の獲得や経費節減等の効果の現れであり、赤字体質からの脱却の兆しが見えてきていると言えます。今後とも大学が安定的に学生確保することができれば、学園の財務強化に非常に有為であるため、今後も定員確保を最優先課題として取り組まなければなりません。

短大

短大は、収容定員は確保しましたが、全国的にも短大を取り巻く環境が非常に厳しくなっています。本学においても例外ではなく、特に福祉学科の慢性的な定員割れは、もはや他学科で補うことが困難な状況にあります。当年度収支差額では、53,069千円（H27 49,964千円）の黒字計上となりましたが、決して楽観できる状況にはありません。加えて、短大校舎改築二期工事について、早急に計画立案が必要であることを鑑みても、安定的な学生確保策を検討・実施する必要があります。

高校

高校は、先進的ICT教育、国際交流活動及びグローバル化の推進などに積極的に取り組んでおり、各中学校からもその実績が認知され、近年は安定的に生徒数を確保することができています。また、諸活動においても各クラブが県内で実績を上げ、全国大会等へ出場するなどの成果を上げています。当年度収支差額は、53,360千円（H27 36,610千円）となり、近年は順調に黒字を計上できています。今後は、国公立大学や海外校を含めた進学実績を増やしていくことが必要です。

幼稚園

幼稚園は、県内の幼稚園が園児募集に苦戦している中で、保育内容や自然環境への高評価に加え、保護者会等との連携や預り保育の実施等の手厚い保育も評価され、近年は収容定員を確保することができています。しかし、当年度収支差額は△20,963千円（H27 △8,811千円）となり、慢性的な赤字体質が続いています。加えて、予てより検討を重ねてきた園舎改築工事に着手したこともあり、収支状況は更に悪化しています。この園舎改築を機会に、より良い保育環境の確保や実習機能の強化とともに財務体質の改善にも取り組まなければなりません。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,809百万円（対前年度比35百万円増・1.3%増）、事業活動支出合計が2,572百万円（同10百万円増・0.4%増）、基本金組入額合計が137百万円（同42百万円増・44.2%増）となりました。この結果、平成29年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、平成27年度の前年度繰越収支差額△2,715百万円に、平成28年度の当年度収支差額100百万円を加え、さらに第4号基本金の部門間調整を行った結果、△2,597百万円となりました。

資金収支計算書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	28年度予算	28年度決算①	前年度決算②	差異①-②
収入の部				
学生生徒等納付金収入	1,899,315	1,929,523	1,899,413	30,110
手数料収入	36,907	38,456	36,289	2,167
寄付金収入	13,890	12,554	6,496	6,058
補助金収入	707,797	674,608	687,421	△12,813
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	31,637	29,488	58,153	△28,665
受取利息・配当金収入	10,220	6,205	7,428	△1,223
雑収入	109,845	111,781	65,129	46,652
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	464,841	460,590	446,426	14,164
その他の収入	154,952	184,193	258,126	△73,933
資金収入調整勘定	△572,936	△577,955	△572,541	△5,414
前年度繰越支払資金	758,752	758,751	919,361	△160,610
収入の部合計	3,615,221	3,628,194	3,811,701	△183,507
支出の部				
人件費支出	1,671,804	1,659,587	1,596,623	62,964
教育研究経費支出	553,731	482,156	532,037	△49,881
管理経費支出	136,211	117,289	122,315	△5,026
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	28,737	27,914	7,334	20,580
設備関係支出	111,918	106,593	108,004	△1,411
資産運用支出	339,331	475,741	567,509	△91,768
その他の支出	84,974	83,474	202,596	△119,122
(予備費)	(985)			
資金支出調整勘定	△132,000	△139,678	△83,468	△56,210
翌年度繰越支払資金	806,000	815,118	758,751	56,367
支出の部合計	3,615,221	3,628,194	3,811,701	△183,507

収入増の主な要因は、①大学及び高校の学生生徒数の増、②短大受配者指定寄付金の増、③退職金財団・社団からの退職資金交付額の増などによるものです。

支出増の主な要因は、①退職者増による人件費の増、②短大図書除却の増などによるものです。

資金収支計算書（当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出の額を明らかにするもの）において、収入の部では、大学の前受金収入が大幅に増加しています。しかし、その結果、平成29年度の子ども育成学部入学が入学定員を大幅に超えることとなり、経常費補助金交付で減額のペナルティを受けることとなりました。

支出の部では、高校バス待合室新設工事や幼稚園の園舎改築工事に着手したことによる施設関係支出が増加しています。（詳細は、下記「資金収支計算書」を参照下さい。）

貸借対照表（当該会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするもの）において、学園の財務状況を見ると、平成28年度末現在の資産総額は12,955百万円となりました。一方、負債総額は1,251百万円、純資産の内、基本金は14,300百万円となりました。これらの結果、翌年度繰越収支差額は△2,597百万円となり、約119百万円収支が改善しました。（詳細は下記「貸借対照表」を参照下さい。）

平成28年度決算において、事業活動収支決算は4年連続で黒字を計上することができ、学園の財務状況は、現状では良い傾向にあります。しかし、中長期的視野に立つて考えると、呉羽キャンパス再整備計画の実施時期は未確定であり、学園では資金需要の高い案件が残っていることも現実の課題として捉えなければなりません。

加えて、大学東黒牧キャンパスは、大学開学から25年以上が経過し、既に、施設の老朽化に伴う大規模修繕が発生しています。これらの施設設備投資を行うには、優先順位を付けた上で、計画的に行う必要があります。

また、これら全てを自己資金で賄うためには、収入を安定的に確保すること（学生生徒数・志願者数の確保、新たな財源の確保など）、支出を極力抑制すること（教育の質を確保する前提で、不要不急の支出削減、効率

事業活動収支計算書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	28年度予算	28年度決算①	前年度決算②	差異①-②
教育活動収入				
学生生徒等納付金	1,899,315	1,929,523	1,899,413	30,110
手数料	36,907	38,456	36,289	2,167
寄付金	15,592	12,674	7,043	5,631
経常費等補助金	707,797	667,402	676,990	△9,588
付随事業収入	31,637	29,488	58,153	△28,665
雑収入	109,845	111,918	73,108	38,810
教育活動収入合計(1)	2,801,093	2,789,461	2,750,996	38,465
教育活動支出				
人件費	1,681,804	1,657,678	1,606,492	51,186
教育研究経費	861,731	789,755	827,884	△38,129
管理経費	138,710	119,465	124,109	△4,644
徴収不能額等	1	955	0	954
教育活動支出合計(2)	2,682,246	2,567,853	2,558,485	9,368
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	118,847	221,608	192,511	29,097
教育活動外収入				
受取利息・配当金	10,220	6,205	7,428	△1,223
その他の教育活動外収入	1	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	10,221	6,205	7,428	△1,223
教育活動外支出				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	6,205	7,428	△1,223
経常収支差額(7)=(3)+(6)	129,068	227,813	199,939	27,874
特別収入				
資産売却差額	1	0	0	0
その他の特別収入	2	13,080	15,743	△2,663
特別収入合計(8)	3	13,080	15,743	△2,663
特別支出				
資産処分差額	9,300	3,926	2,759	1,167
その他の特別損失	1	6	72	△66
特別支出合計(9)	9,301	3,932	2,831	1,101
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△9,298	9,148	12,912	△3,764
【予備費】(11)	15,500			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	104,270	236,961	212,851	24,110
基本金組入額合計(13)	△99,480	△136,578	△95,479	△41,099
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	4,790	100,383	117,372	△16,989
前年度繰越収支差額(15)	△2,715,304	△2,715,304	△2,832,676	117,372
基本金取崩額(16)	0	18,200	0	18,200
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△2,710,514	△2,596,721	△2,715,304	118,583
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,811,317	2,808,746	2,774,167	34,579
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,707,047	2,571,785	2,561,316	10,469

的な予算執行や業務改善など)の2点について、学園をあげて取り組まなければなりません。

今後、私学を取り巻く環境が厳しさを増すことは明らかであり、そのような環境下で本学園が生き残ることは容易ではありません。しかし、本学園は建学の精神に基づき、地域に根差した有為な人材育成を続けるという使命を果たし続けなければなりません。そのためには、財務基盤の強化は不可欠であることを決して忘れてはなりません。(学園の詳細な財務状況等は、学園のWebページ【<http://www.tii.ac.jp/finance.html>】に掲載しておりますので、そちらもご覧ください。)

平成28年度学校法人富山国際学園財務分析について

平成28年度決算の財務分析によると、法人全体及び各学校(幼稚園を除く)の収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要があるが、短期的な支払い能力(返済力)は特に問題なしと判断される。

事業活動収支差額比率(損益ベースでの収支状況)は0%以上、人件費比率(人件費の収入に対するバランス)は大学・短大・高校は60%以下、教育研究経費比率(教育研究経費の経常収入に占める割合)は目安とされる30%を、大学以外は若干下回っており、今後、教育活動への更なる投資をめざす必要がある。

積立率(安定的に経営を行う上での保有資産の状況)は69.3%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

流動比率(短期的な支払い能力)は148.2%と返済力には問題はない。今年度から幼稚園園舎改築工事に着手し、短大の第Ⅱ期工事、高校の第二体育館の増改築、大学東黒牧キャンパスの老朽化による修繕費の増等が

見込まれることから、収益性を更に高め、運用資産を増加させて安全性を高めていくことが課題である。

【参考】財務指標の意味

(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより)

- ① **事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入】**
事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。
- ② **人件費比率【人件費/経常収入】**
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。
- ③ **教育研究経費比率【教育研究経費/経常収入】**
教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失わない範囲内で高くなるのが望ましい。
- ④ **積立率【運用資産/要積立額】**
※本学園の場合、減価償却引当特定資産がないため、特定資産に「学園充実引当資産」を加える。
運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券
要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋2号基本金＋3号基本金
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要(保有すべき要積立額)に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。
- ⑤ **流動比率【流動資産/流動負債】**
流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

【主な財務指標】

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,808,745	2,571,785	236,960	8.44%	59.02%	28.11%	69.3%	148.2%
大学	1,095,022	998,365	96,301	8.79%	56.12%	30.15%		
短大	953,079	852,026	101,053	10.60%	56.42%	28.08%		
高校	686,606	598,227	88,380	12.87%	59.74%	25.26%		
幼稚園	67,705	78,450	-10,745	-15.87%	87.20%	27.37%		

貸借対照表

平成29年3月31日

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	11,986,687	11,782,368	204,319
有形固定資産	8,298,109	8,471,031	△172,922
特定資産	622,893	624,898	△2,005
その他の固定資産	3,065,685	2,686,439	379,246
流動資産	968,015	864,445	103,570
資産の部合計	12,954,702	12,646,813	307,889
負債の部			
固定負債	598,367	600,372	△2,005
流動負債	652,800	579,867	72,933
負債の部合計	1,251,167	1,180,239	70,928
純資産の部			
基本金	14,300,256	14,181,878	118,378
第1号基本金	14,105,730	13,972,352	133,378
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,526	13,526	0
第4号基本金	181,000	196,000	△15,000
繰越収支差額	△2,596,721	△2,715,304	118,583
純資産の部合計	11,703,535	11,466,574	236,961
負債及び純資産の部合計	12,954,702	12,646,813	307,889

活動区分資金収支計算書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,929,523	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	426,410
手数料収入	38,456	(0)=(5)+(0)	
特別寄付金収入	12,554	借入金等収入	0
一般寄付金収入	0	退職給付引当特定資産取崩収入	7,438
経常費等補助金収入	667,402	学園充実引当資産取崩収入	89,494
付随事業収入	29,488	預り金受取収入	993
雑収入	111,781	修学旅行費預り金受取収入	1,567
教育活動資金収入計(1)	2,789,204	小計	99,492
人件費支出	1,659,587	受取利息・配当金収入	6,205
教育研究経費支出	482,156	過年度修正収入	0
管理経費支出	117,289	その他の活動資金収入計(2)	105,697
教育活動資金支出計(2)	2,259,032	借入金等返済支出	0
差引(3)=(1)-(2)	530,172	第3号基本金引当特定資産繰入支出	0
調整勘定等(4)	17,847	退職給付引当特定資産繰入支出	5,433
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	548,019	学園充実引当資産繰入支出	468,740
施設整備等活動資金収入	0	修学旅行費預り資産繰入支出	1,567
施設整備補助金収入	7,207	小計	475,740
施設整備売却収入	0	借入金等利息支出	0
施設整備等活動資金収入計(6)	7,207	その他の活動資金支出計(3)	475,740
施設関係支出	27,914	差引(0)=(2)-(3)	△370,043
設備関係支出	106,593	調整勘定等(5)	0
施設整備等活動資金支出計(7)	134,507	その他の活動資金収支差額(0)=(4)+(5)	△370,043
差引(8)=(6)-(7)	△127,300	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)(0)+(0)	56,367
調整勘定等(9)	5,691	前年度繰越支払資金	758,751
施設整備等活動資金収支差額(0)=(8)+(9)	△121,609	翌年度繰越支払資金	815,118

部門別事業活動収支計算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人
教育活動収支	学生生徒等納付金		1,929,523	814,531	698,793	389,885	26,314	0	経常収支差額	(7)=(3)+(6)		227,812	95,525	103,175	78,598	△11,107	△38,379
	手数料		38,456	14,010	13,980	10,434	32	0	収入の部の活動	資産売却差額		0	0	0	0	0	0
	寄付金		12,674	2,800	8,674	960	240	0	支出の部の活動	その他の特別収入		13,080	1,556	1,375	9,787	362	0
	経常費等補助金		667,402	198,849	171,556	273,819	23,178	0	特別収入	その他の特別収入		13,080	1,556	1,375	9,787	362	0
	付随事業収入		29,488	13,421	9,716	6,108	243	0	支支の部の活動	資産処分差額		3,926	424	3,497	0	0	5
	雑収入		111,918	49,652	48,810	1,721	11,471	264	特別収入	特別支出合計(9)		3,932	424	3,497	6	0	5
	教育活動収入合計(1)		2,789,461	1,093,263	951,529	676,819	67,343	507	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0
	人件費		1,657,678	614,563	537,732	410,157	59,038	36,188	特別収入	特別収支差額		9,148	1,132	△1,122	9,781	362	△5
	教育研究経費		789,755	330,213	267,584	173,426	18,532	0	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0
	管理経費		119,465	52,210	43,213	14,638	880	8,524	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0
徴収不能額等		955	955	0	0	0	0	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0	
教育活動支出合計(2)		2,567,853	997,941	848,529	598,221	78,450	44,712	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)		221,608	95,322	103,000	78,598	△11,107	△44,205	特別収入	特別収支差額		0	0	0	0	0	0	
教育活動外収支	受取利息・配当金		6,204	203	175	0	0	5,826	基本金組入前当年度収支差額(1)=(7)+(0)		236,960	96,657	101,053	88,379	△10,745	△38,384	
	その他の教育活動外収入		0	0	0	0	0	0	基本金組入額合計(2)		△136,578	△41,396	△47,984	△35,019	△10,218	△1,961	
	教育活動外収入合計(4)		6,204	203	175	0	0	5,826	当年度収支差額(3)=(1)+(2)		100,382	55,261	53,069	53,360	△20,963	△40,345	
	借入金等利息		0	0	0	0	0	0	前年度繰越収支差額(4)		△2,715,304	—	—	—	—	—	
	その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0	0	基本金取崩額(5)		18,200	—	—	—	—	—	
	教育活動外支出合計(5)		0	0	0	0	0	0	翌年度繰越収支差額(0)=(3)+(4)+(5)		△2,596,722	—	—	—	—	—	
	教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)		6,204	203	175	0	0	5,826	(参考)								
	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)		2,808,745	1,095,022	953,079	686,606	67,705	6,333	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)		2,808,745	1,095,022	953,079	686,606	67,705	6,333	
	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)		2,571,785	998,365	852,026	598,227	78,450	44,712	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)		2,571,785	998,365	852,026	598,227	78,450	44,712	
	事業活動収支合計(事業活動収支差額)		236,960	96,657	101,053	88,379	△10,745	△38,384	事業活動収支合計(事業活動収支差額)		236,960	96,657	101,053	88,379	△10,745	△38,384	

富山国際大学

シンクロナイズドスイミングU18日本代表メダル獲得！ 愛媛国体ボート競技成年女子シングルスカル優勝！



子ども育成学部1年生の若杉瑞帆さんが、シンクロナイズドスイミングにおいて18歳以下の日本代表に選出され、第9回AASFアジアエイジグループ選手権大会(平成29年9月9日(土)～16日(土)・ウズベキスタン・タシケント開催)に出場しました。結果は、チーム及びハイライトルーティーンの2種目で金メダル、フリーコンビネーションで銀メダルを獲得し、金メダル2個、銀メダル1個を獲得する日本代表の一員として貢献しました。11月には、その功績を讃えられ、富山県より県功労賞を授与されました。

現代社会学部4年生の栗山咲樹さんは、第72回国民体育大会(愛媛国体:平成29年9月30日(土)～10月10日(火))のボート競技富山県代表選手として選出され、成年女子シングルスカル種目で優勝しました。予選をすべて1着で通過し、決勝ではスタート直

後から抜け出し、中盤以降もリードを保っての圧倒的な勝利でした。

栗山さんは今までの功績が讃えられ、昨年度の富山県功労賞受賞に引き続き、今年度は12月に富山県体育協会より特別表彰と国体表彰をダブルで受賞し、1月には富山市体育協会より優秀選手表彰が授与されます。

富山短期大学

食肉惣菜創作発表会 全国大会で審査委員特別賞に輝く

アイデア肉料理の出来栄を競う「食肉惣菜創作発表会」の県大会が平成29年10月16日(月)、高岡市ふれあい福祉センターで開催され、最優秀賞に食物栄養学科1年の小林正幸さんの「豚肉の昆布メロール焼き」が選ばれました。県大会は国産食肉の消費促進を目的に、県食肉事業協同組合連合会が1994年から開いており、今年度は90名の中から県代表となりました。

本学学生は平成28年度にも県代表として選ばれており、2年連続の快挙です。小林さんは12月2日(土)に東京都内で開かれた全国大会に県予選を勝ち抜いた30人とともに出場し、会長賞は逃しましたが江上審査委員による特別賞に輝きました。食物栄養学科の1年生は、「米粉レシピコンテスト」(富山県食品産業協会主催)及び「くろべ健康体質料理レシピコンテスト」(黒部市主催)においても最優秀賞となり、大活躍をしています。



富山国際大学附属高等学校

富山国際大学附属高等学校 野球部 北信越大会ベスト4

平成29年10月14日(土)から福井県で行われた秋季高校野球北信越大会において、本校野球部がベスト4に進出しました。準決勝では、惜しくも石川県の星稜高校に敗れましたが、長野県の松商学園高校、新潟県の中越高校を下してのベスト4進出は大健闘といえます。選手たちは本当によく頑張ってくれました。欲を言えば、もう1勝して春の甲子園を大きく引き寄せてほしかった(北信越地区から3校)ところですが、あと一歩及びませんでした。

また、11月17日(金)には21世紀枠の富山県代表選出の表彰式がありました。甲子園出場に関しては、この後、北信越の代表に選ばれ、さらには全国で3校の枠に入らなければ、出場は叶わないという大変狭き門ですが、県の21世紀枠に選ばれたのも初めてのことであり、今後もプライドを持って精進して欲しいと思います。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

日本一の称名滝までレッツ・ゴー！



秋晴れのすがすがしい天候の中、年長組は、称名滝に遠足に行ってきました。子どもたちは、事前に調べた中で滝の高さが日本一ということを知っていて、すごくワクワクしていました。立山は紅葉シーズンで、色づいた木々を見ながら歩くのは、とても気持ちよく「きれい!」「いろんな色の木がある」などの声が聞かれました。どんどん歩いていくとポツリと顔に水しぶきが…! 不思議そうにしながら歩いていると、そこに称名滝が見えてきました。称名滝の高さ、音、水しぶきなどの迫力、すごさに「大きい!」「すごーい!」など大歓声でした。実際に目で見て、身体で感じることの素晴らしさを実感できた遠足でした。

なお、年中組は、ねいの里、年少組は呉羽山へ行き、秋の自然に触れてきました。